理事長
三村浩史

ご挨拶

このたび、京都市景観・まちづくりセンターは、京町家まちづくりファンドや京町家カルテ、京町家再生プロジェクト（ワールド・モニュメント財団支援プロジェクト）等の取組が評価され、第２回まちづくり法人表彰における「まちの活性化・魅力創出部門」で国土交通大臣賞を受賞しました。この成果は、各種事業に、平成9年の設立時から積極的に関わってきて頂いた事業者、ＮＰＯ、市民及び各地の有志の皆様との連携があってこそのものと思います。

今後とも、当センターは、京都のまちと景観のために力を尽くしてまいります。

賛助会員募集中

センターの活動の主旨に賛同していただける方を賛助会員として募集し、会費はニュースレターの発行やまちづくり活動の支援、京町家の保全・再生に向けた取組などの事業に活用させていただきます。

年度会費
個人1口／5,000円　団体1口／50,000円

特典1　ニュースレター「京まち工房」送付（季刊・年4回）

特典2　冊子等の進呈

特典3　当センターホームページへのバナー掲載（団体会員）

お申込み・お問い合わせ

（公財）京都市景観・まちづくりセンター
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
http://machi.hitomachi-kyoto.jp/

メルマガ会員も募集中。ホームページからご登録いただけます。

（公財）京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
（河原町五条下る東側）　ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
http://machi.hitomachi-kyoto.jp/

開館時間
平日・土　9:00 ～ 21:30
日・祝　9:00 ～ 17:00

休館日
毎月第3火曜日（国民の祝日にあたるときは翌日）
年末年始（12月29日～1月4日）

交通案内
バス　市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車　京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分
　　地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分

当センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

編集：リーフ・パブリケーションズ

（公財）京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター　京まち工房　第63号　2013年6月　編集・発行　（公財）京都市景観・まちづくりセンター

パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房 63

（公財）京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

特集　希望と活力あふれるコミュニティづくり
柊野学区のまちづくり

地域景観づくり協議会
桂坂地区の新たな取組

戸寺地区の地区計画を中心としたまちづくり

三都連携セミナー
「住」について学ぼう!

景観・まちづくり大学
学生まちづくりセミナー 御池通界わいの今と昔 ほか

京町家再生事例
西陣 路地奥の京町家

http://machi.hitomachi-kyoto.jp/

特集

柊野学区のまちづくり

希望と活力あふれるコミュニティづくり

賀茂川をはさんだ自然豊かなまち“柊野”

柊野学区は上賀茂神社の北側に位置し、賀茂川を挟んで東西に広がります。西側は昭和44年からはじまった区画整理により形成された閑静な住宅街で、東側は歴史的な風情を伝える農家の佇まいや田畑が残り、懐かしいふるさとを感じさせるような風景が広がります。北に山々をのぞみながら流れる賀茂川の美しい景観や緑豊かな環境は、柊野学区の大きな財産と言えます。

STEP 1 課題の発見

まちの未来を描きたい

近年、柊野学区の環境に魅力を感じる若い世代の転入が続いており、現在の人口は北区の学区の中では3番目に多く、平均年齢は区内で最も若くなっています。

しかし一方で、高齢の方はバス等の交通の不便さ、集会施設の不足、また若い世帯の町内会への参加が少ないことなど、身近な課題がみえてきました。

町内会連合会は、こうした背景を踏まえ、より良い柊野学区を実現するためのビジョンの検討を始めました。

ビジョン冊子『ふるさと柊野』

STEP 2 アンケートの実施

できることから、地域の課題解決にむけて

町内会連合会では、町内会を対象に学区の課題に関するアンケートを平成23、24年度に実施し、集会施設や道路整備のニーズ、バス交通の不便さなどの都市基盤に関する課題や、町内会の加入、ゴミの散乱、地域の祭事の継承など、多岐にわたる課題を確認しました。

まずは柊野学区が未来にむけてどのようなまちを目指すか、その実現に向けて、自分たちで取り組めることは何か……アンケート結果をみながら、役員の方々が中心となり丁寧な議論を重ねていきました。

柊野まつりの様子

STEP 3 ビジョンづくり

1年間の検討を経て

当センターは地域からの相談を受けて、アドバイスや作業を支援してくれる学識経験者や専門家を派遣し、ビジョンづくりのプロセスの組立てやマネジメントのお手伝いをしました。議論を重ねる中で、皆さんの思いが少しずつかたちになり、1年間の検討を経て、将来像と6つのまちづくりテーマ（生活利便性、産業、安心・安全、自然、文化・教育、コミュニティ）を掲げたビジョンがまとまり、今年の4月には全戸に配布することができました。

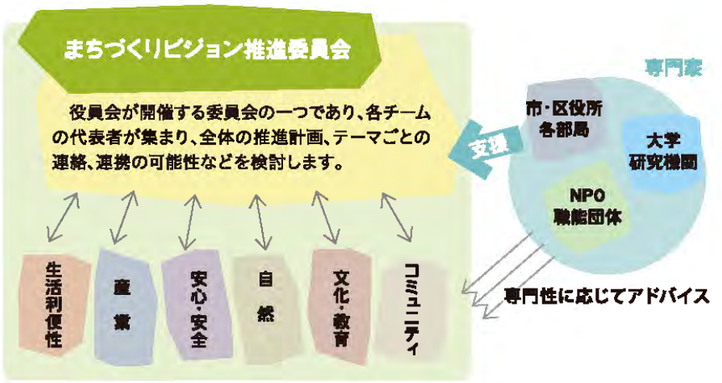
STEP 4 まちづくりビジョンの推進

みんなで育てる、進化するビジョン

ビジョンでは6つのまちづくりテーマを設け、テーマごとに「基本方針」「現状と課題」「取組の方向・具体的な取組」の3段階で取り組む内容が分かりやすく描かれています。

この6つのテーマ毎に編成するチームが中心となり取組を進めます。町内会未加入の人も含め多様な人が参加しやすい工夫を模索する予定です。また、大学やNPO、行政など地域内外の関連機関の力も借りながら取組を進めます。

現在、チームの編成とまちづくりビジョン推進委員会の立ち上げに向けて調整が進んでいます。より多くの人を巻き込み、みんなで話し合いながら、取組もビジョンも進化させていく、そのような進め方をめざしています。



貴船神社（柊野）
虫送り祭大祓い式の様子

文=大屋 みのり

まちづくりビジョンはひとつのきっかけ

柊野学区ではビジョンをきっかけに、まちの良さを見つめ直しながら身近な課題やまちの未来について、気軽に夢をもって語り合える新たな場が生まれつつあります。

完成形の未来をビジョンに描くのではなく、「みんなで動きながら、考え、進化していく」ための動的なビジョンのあり方を、柊野学区の皆さんに教えていただいたように思います。

柊野町内会連合会ホームページ「柊野の絆」
http://hiragino.web.fc2.com/

広がる

地域景観づくり協議会の取組
～桂坂地区の新たな取組～

地域景観づくり協議会の制度がスタートして2年。少しずつ、取り入れる地域が増え地域に合わせた活用がなされてい ます。今回、新たに認定された「桂坂景観まちづくり協議会」につい てご紹介します。

※地域景観づくり協議会：建築行為などを行う際に、建築主と地域住民の間で協議の場を持つことを定める制度。詳細は「京まち工房60号」参照

PICK UP

桂坂 かつらざか

桂坂は、西京区の西山のふもと、丘陵地に開発されたニュータウンです。

自然環境をできるだけ住宅地内に取り入れようと、緑道や公園が豊富に計画されています。その緑豊かな住宅地と周辺の自然環境も含めた地域全体の景観を考える活動に取り組んでいます。

【これまでの桂坂学区の取組は「京まち工房53号」参照】

緑道

幹線道路沿いの並木

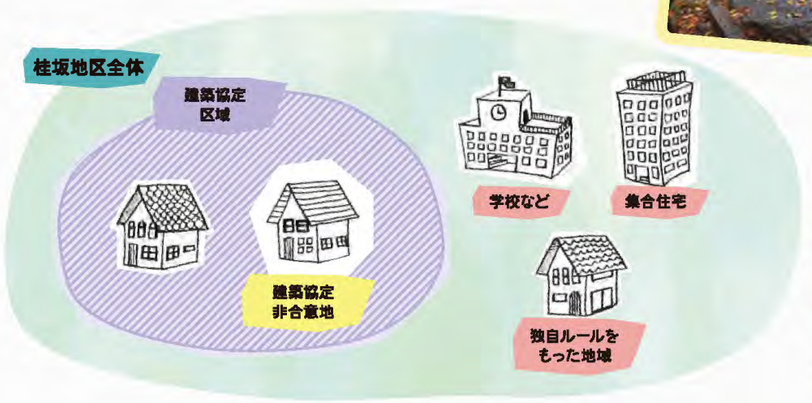
地域全体としての景観まちづくり活動の広がり

「桂坂景観まちづくり協議会」は、「桂坂地区建築協定協議会」を発展させる形で、建築協定の運営にとどまらず地域全体の豊かな環境や家並みを維持し磨きをかけていくことを目的に設立されました。

桂坂では、開発時から戸建住宅地のほぼ全域に建築協定が定められています。「建築協定」は、建物の新築や増改築等の際に守るルールを住民相互で取り決めたもので、協定を結んだ人たちのみに効力があります。まち開きから20年以上を経て、建築協定の更新時に協定から抜ける人も出てきました。今回、協議会が「地域景観づくり協議会」の認定を受けることで、建築協定に合意されなかった宅地や、建築協定の区域外にある集合住宅、商業施設、公共施設なども、建築の計画段階で事前協議を行えることになります。こうした仕組みを活用し、一つひとつの建築行為に丁寧に対応しながら、地域全体の景観まちづくりを皆で考え、実践していこうとしています。

緑豊かな広場

まちあるきの様子



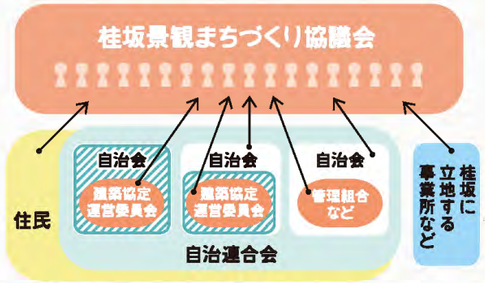
桂坂地区建築協定協議会の活動範囲

桂坂景観まちづくり協議会の活動範囲

さまざまな活動主体が連携した組織運営

約3700世帯を有する桂坂は15の自治会に分かれており、それぞれが、自立的に運営されています。その自治会の連合体が桂坂学区自治連合会で、ほとんどの自治会には、建築協定運営委員会が設置されています。「桂坂景観まちづくり協議会」は、建築協定運営委員会をはじめ、自治会、自治連合会とその各種団体、集合住宅等の管理組合、地区内に立地する事業所なども含めた地域の様々な組織や住民が広く連携・参画する構成となっています。

「桂坂景観まちづくり協議会」は、住民の方々や建築協定運営委員会等の活動主体が、それぞれ景観を守るための役割を担いつつ、互いに協力して景観まちづくりを進めていくことを目指しています。具体的な活動として、協議会は桂坂全体の景観づくりの方針を検討するとともに、個々の建築協定運営委員会等の活動がより活発に進むように、課題・情報の共有と対応方法の検討や、講演会やまちあるきなど地域全体を対象とした活動の企画などを担っています。



図：桂坂景観まちづくり協議会のメンバー構成　建築協定区域

協議会の会議の様子

地域の価値を共有する場としての地域景観づくり協議会

「桂坂景観まちづくり協議会」は、住民の方々と桂坂の景観の価値について共に理解し、守り育てていく仲間を増やそうとしています。協議会は、建築主との「協議の場」であり、建築主を仲間として迎え入れ、桂坂の景観の良さを共有することを重視しています。

桂坂景観まちづくり協議会ホームページ

http://kyoto-machisen.jp/chiiki_hp/katsurazaka/kyoteikyogikai/index.html

文=和田野 美久仁

京都市の地域景観づくり協議会

- **修徳景観づくり協議会**（下京区）（平成24年6月1日）
- **先斗町まちづくり協議会**（中京区）（平成24年6月1日）
- **西之町まちづくり協議会**（東山区）（平成24年7月17日）
- **一念坂・二寧坂 古都に燃える会**（東山区）（平成25年2月1日）
- **桂坂景観まちづくり協議会**（西京区）（平成25年2月1日）

※日付は協議会の認定日

祝!!

修徳自治連合会が関西まちづくり賞受賞!

「京まち工房51号及び60号」でご紹介していました、修徳自治連合会が「修徳まちづくり憲章」の取組を評価され、2012年度の関西まちづくり賞を受賞されました。ここに心よりお祝い申し上げます。

自然の豊かさと歴史を守り、新たな取組へ

―戸寺地区の地区計画を中心としたまちづくり―

戸寺地区

左京区大原の入り口にある高野川と山に挟まれた傾斜地を中心とした地区です。山の裾野に沿って古くからの家が並び、石積みが特徴的です。

集落の活力を保ちたい

戸寺地区は市街化調整区域※内にあるため建物の新築が原則として禁止されている、新規住民が増えないこと等により、少子高齢化、過疎化が課題になっています。また、サギッチョ（正月過ぎに行われる火祭り：左儀長）などの伝統行事を担う若い人たちが減ってきました。

そこで、集落の将来像を考え新規住民の移住を図るため、平成23年度に「戸寺地区まちづくり検討委員会」が立ち上げられました。豊かな自然環境や昔からのコミュニティを活かし、地域の魅力や特徴を伸ばすための取組が進められています。

集落の将来像と地区計画の取組

戸寺地区では地域の活力を保つため、新規住民、とりわけ若い人が移住してきやすい体制を整えるために市街化調整区域※での地区計画の策定に取り組んでいます。その地区計画を含めた集落の将来像を描き、平成24年度に戸寺地区まちづくり検討委員会で「戸寺地区まちづくり計画」として策定しました。

そこでは、新たな住宅地の導入推進エリアの設定だけでなく、「花尻の森」の椿や「高野川」の桜など、四季折々の花が咲く集落を守り育てていくことや、新たなハーブガーデンの整備も盛り込まれています。これらの取組を通じて、住民全体による集落の活性化と持続を目指しています。また、平成25年5月には、京都市に地区計画の地元案を提出し、「まちづくり計画」の実現に向けて一歩進み出しました。

手づくりの児童公園

「戸寺私設児童公園」開幕式の様子

まちづくり計画のひとつとして、手づくりの児童公園が作られました。材料や工事は地域の関係者に協力を仰ぎ、工事もできるところは住民自ら作業を行いました。

※市街化調整区域は、市街化を抑制すべき地域で、この区域内では開発行為、建築行為が原則として禁止されています。

文=和田野 美久仁

KYOTO　OSAKA　KOBE

京都・大阪・神戸

三都連携セミナー

～「住」について学ぼう！～「住教育」をみんなで考えるセミナー

日時　平成25年3月10日（日）

場所　大阪市立住まい情報センター・大阪くらしの今昔館

1．講　演　碓田智子氏（大阪教育大学教授）
「学校教育での住教育から市民のための住教育へ」

2．住教育支援活動の紹介
神戸市すまいの安心支援センター／京都市景観・まちづくりセンター／大阪市立住まい情報センター

3．今昔館で大人も学ぼう！
小学校向け模擬授業と、町人に扮したボランティアの方々等による展示解説を通した訪問見学の体験（解説：大阪くらしの今昔館学芸員・町家衆）

講演では、こんなことを学びました

- 住まいやまちについて知識や関心を持つことで、市民の住生活が向上し、地域の住まいづくりやまちづくりにつながる
- 日常的に、住まいを自ら選択する機会が少ないため意識的に学ぶ必要がある
- 子どもの頃から住まいやまちに関心を持ち、地域づくりの主体的なメンバーになるように育てていくことが重要
- 学校教育においては、住まいについて学ぶ時間や機会を確保する仕組が必要

「大阪くらしの今昔館」見学の様子

今回、訪問見学の体験を行った「大阪くらしの今昔館」は、セミナーを開催した施設内にあり、江戸時代の大阪のまちなみを実物大で体験できる施設です。

文=和田野 美久仁

三都連携とは？

京都・大阪・神戸で住まい・まちづくりの相談・普及・啓発などを行っている各都市の機関が、相互の経験を伝え合い、三都市の市民同士が互いに情報を提供しあうことを目指している連携事業で、日本建築学会が支援を行っています。

景観・まちづくり大学

景観・まちづくり大学は、京都のまちづくりに関心のある人々が集い、語らい、交流する場です。
共に学び、共に育つ…。京都市景観・まちづくりセンターは京都の明日のまちづくりを担う、みなさんの活動を応援します。
元気なまちへの第一歩、あなたから始めませんか。

学生がまちの「今」と「昔」を読み解く

学生まちづくりセミナー
御池通界わいの今と昔　千本通～河原町通

共催：中京区役所、京都市立芸術大学、京都市景観・まちづくりセンター

京都市立芸術大学の学生が、御池通周辺地域の方々から地域の歴史や資源のお話を伺い、
その後、フィールドワーク等を行いました。
それらを元に、学生たちは現在の姿をそのまま描くのではなく、地域から受けた印象やお話を聞いて想像した昔の景観を、
一枚のパネルの中にストーリー性を持たせながらデザインするなど、工夫を凝らし自由に表現しました。

2012 12/11 tue

フィールドワーク

御池通周辺地域の方々から平安時代からの歴史や、戦時中の建物疎開により道幅が拡幅される以前の御池通の様子などをご講演いただいた後、3グループに分かれてご案内いただきました。御池通沿いだけではなく、周辺の神社や元小学校のお話も伺いました。

2013 3/4 mon

2013 3/10 sun

オープニング交流会&展示会
（交流会：3/4（月））
（展示会：3/5（火）～3/10（日））

場所：堀川御池ギャラリー

展示会に先駆けて、御池通周辺地域の方々にお集まりいただき、学生と交流会を行いました。
学生たちは、作品パネルの製作を通して、御池通の魅力を再発見しました。時代の移り変わりを一枚に表した作品や、御池通沿道の特徴ある施設や歴史的事象をモチーフにして感性豊かに表現した作品などに、多くの来場者が興味深く見入っていました。

学生が、感じ取ったことや描いたコンセプトを説明しながら地域の方と意見交換

文＝和田野 美久仁

仮囲いのパネル展示

浩和会丸太町病院（中京区）の工事の仮囲いにパネルのデザインが展示されてミニギャラリーになっています。平成25年9月頃までご覧いただけます。

京のまちづくり史セミナー

時間：13：30～16：00
会場：清水焼団地協同組合
講師：谷口正典氏
（陶芸家、日本新工芸家連盟評議員、
大阪成蹊大学芸術学部非常勤講師）
協力：清水焼団地協同組合

2013 3/5 tue

新天地を求めた清水焼団地 ～京焼の発展とともに～

登り窯の公害問題への対応や伝統的な生産構造の改善を期すために新天地として開発された清水焼団地。

一昨年に団地は50年目を迎えました。団地開発の特徴は、共同施設の充実、環境への配慮、観光拠点の整備がなされていることです。セミナーでは、京焼の歴史・特徴・生産工程についての講義のあとに、粘土の卸業者、木箱の製作工場、陶芸の作業場、製品の卸店舗など団地内の関連施設の見学をしました。左の写真は講師の谷口先生の作業場で、作業工程や作品の特徴についての説明をうけているところです。

工場見学の様子

時間：10：00～15：30
会場：伏見青少年活動センター他
講師：北川幸裕氏（北川本家）
コーディネーター
：谷口知弘氏（コミュニティデザイン研究室代表）
協力：伏見まるごと博物館運営委員会／（株）北川本家／
京都市伏見青少年活動センター

2013 3/11 mon

酒蔵から見る伏見の町の移ろい

京の生活を支える物流の拠点であった伏見。秀吉の時代には城下町として全国の大名の屋敷が林立し、江戸時代には天領として、独自の歴史を歩みました。そして伏見といえば、水にも恵まれたお酒のまちとして知られています。

セミナーでは、「宮narita」の北川社長から、酒造りにかける意気込みをお聞きし、工場の見学をしました（利き酒あり！）。そして、伏見の魅力を発信する活動をしている「伏見まるごと博物館運営委員会」のみなさんによるご案内で港、酒造、観光、商業など産業に関わる場所を巡る、まちあるきをしました。

文＝杉崎 和久

今後の開催予定

□京のまちづくり史セミナー	8/7（水）	18：30～20：30	「京都の北と南、東と西：地図に潜む二つの関係」
	8/21（水）	18：30～20：30	「道は分けるもの？つなぐもの？」
□まちづくり実践塾	7/26（金）	19：00～21：00	「移り変わる町の景観制度」
	9/20（金）	19：00～21：20	「海外の街の再生から京都をみる」
□京町家再生セミナー	7/15（月・祝）	14：00～16：30	「大工さんに聞く、町家のキホン」
	7/27（土）	14：00～16：00	「京町家の夏を科学する～夏を乗り切る知恵と工夫～」

（申し込み方法）①セミナー名 ②開催日 ③氏名（ふりがな） ④郵便番号・住所 ⑤電話番号 ⑥FAX番号 ⑦E-mailアドレス ⑧賛助会員登録の有無
以上を明記の上、電話・FAX・E-mail・のいずれかで、当センターまでお申し込みください。（⑥⑦はある方のみ）

平成23年度 京町家まちづくりファンド 改修助成事業

端正な京町家に、自然との共生思想を受け継ぐ新たな取組み

京町家再生事例「西陣 路地奥の京町家」寺島邸

改修前

寺島邸は、明治30年に西陣織の本金糸を製造する職人さんの社宅兼仕事場として建てられた路地奥の京町家です。

2010 9 物件探し開始

2011 3 京町家まちづくりファンド選定

7 京町家売買契約

2012 3 工事継続中の町家に引越し

2013 1 改修工事ほぼ完了

5 作庭作業開始

茶事等への活用

内部解体工事開始

改修後

住まいとしての京町家

寺島さんは、終の住処として京町家の物件を探し始められました。これまで身近な都市景観のひとつとして見ていた京町家をご自身のお住まいとして見つめ直した際に、簡潔で簡素な外観デザインや吹き抜けや内部空間の広がり、そして太い梁など、随所に品格・風格が感じられる京町家に改めて心ひかれたとのこと。

改修のPOINT1

楽しみながら改修

格子や柱など本部のベンガラ塗装のほとんどはご自身が行われました。

土壁の一部も友人達の助けを借りながら塗り、建具や庭石の一部は京町家の解体現場から譲り受けて調達。ご自身が工事に深く関わることで住まいに対する愛着が増されたのこと。

公園からの景観

改修のPOINT2

自然との共生

大自然の中での創意研究も仕事とされてきた寺島さん。2階の床に強化ガラスをはめ込み、1階に天窓からの光を導く工夫で、一般的には暗いナカノマに軟らかい光が降り注いでいます。

また、この京町家の裏側に公園があることから、緑地環境を室内に取り込む工夫や、公園からの景観にも配慮して計画されました。

改修のPOINT3

人を招く茶室

「憲庵(れんなん)」と名付けられた1階の茶室は、公園に隣接しています。

日当たりの良い庭が自然豊かに作り上げられた折には、知人や外国の方などもお招きして茶事スペースとして活用することも計画されています。

今年で築116年を迎えるこの京町家は今後も愛情に育まれながら引き継がれていくでしょう。

文=土佐 道子

寺島さんからのメッセージ

改修後の写真は寺島さん撮影

先人達が大切に住み継いできた家を、自分の住む家として再生し、次世代に引き継ぐ体験なんて、滅多にできるものではない貴重なイベントだと思います。

その具体的な構想は、現場に静かに佇んでいると、町家の方から自然と聞こえて来るような気すらしました。今、この木と土から出来て、太陽の光が感じられる 町家に居ると、とても居心地が良いのです。Audioの再生音も、同じ機器とは思えない程に良い響きで鳴ってくれるように感じます。

京町家まちづくりファンドは、京都のくらしの文化、空間の文化、まちづくりの文化を象徴する京町家の再生を支援しています。

私と京都

京都市都市計画局長
小笠原 憲一

「奥の深い京のまち」

京都暮らしが決まった時、心配からか、やっかみからか、友人達からは「難しい土地柄だぞ。京都の人はいけずって言うし」「物の怪が出るらしいな」「夏は暑いし、冬は寒いよ」など散々不安を煽られ、おっかなびっくりでこの地に赴きました。

京都の暮らしも2年目を迎えましたが、東京にどっぷり浸かってきた私にとって、東京とは異質なもので構成される京のまちは全てが新鮮であり、いけずにも物の怪にも会うこともなく（本人が感じてないだけかもしれませんが）、仕事からプライベートに至るまでその「奥深さ」を日々楽しく学ばせていただいています。（もっとも夏の暑さはあまり楽しくありません。）

さて、京都を語るときにステレオタイプ的に表現される「奥深さ」、辞書を引くと「簡単には極めることができない様」と記述されており、文化・芸術・食事・行動様式など京都には様々な「奥深さ」がありますが、京のまちなみの「奥深さ」について私なりに考えてみたいと思います。

言うまでもなく京都には、その時々の人々の生活に欠かせなかった、幅広い時代の建造物群が、作られた時の存在の必然性をあるものは喪失し、あるものは変質させながらも残っています。古くは平安時代より国家の安寧や貴族・庶民の信仰に欠かせなかった寺社仏閣。江戸期から昭和に至るまで、庶民の生活と職業の拠点として建築された京町家。明治・大正期の産官学の最先端を担った近代建築物。単一の時代のものだけが箱庭のように残っているわけではなく、こうした様々な時代の建築物が、モザイクを構成する色や形の異なるパーツとしてまちなみを構成し、時々の人々の営みの記憶を秘めた輝きとして湛えながら、まち歩きの楽しみの多層性を形成しています。

こう考えると、京のまちなみの奥深さは常に新しいものを生み出す力に裏打ちされたものであり、裏を返すと「京都が京都であり続ける」ためのこれからのまちづくりにも新しいものを創出し、これまでのものに重ねていく努力が求められているとも言えます。

世紀を超えて残る「新しいもの」が何なのか、私自身確たる答えを持ち合わせているわけではありませんが、「環境」「共生」「伝統文化」「住民自治」といった、これまで京都が培ってきた「こころ」の延長上にしかその解はなく、その「こころ」が宿る「かたち」である京都の古いまちなみをしっかりと保全していくことこそが新しいものを生み出す鍵であると考えています。

京都市は、これまで細街路対策や空き家対策、密集市街地の解消のための制度的・予算的なツールを整えてきましたが、今、こうしたツールを用いつつ、個別の地区の状況に対応する相談体制を整えながら、地域に入って市民の皆様とともに京都のまちなみの保全・再生に本格的に着手しなければならない局面にあります。「新しいもの」の創出に向けて、京都市景観・まちづくりセンターとの連携がこれまで以上に重要だと感じています。

スタッフのつぶやき A.N

憧れのモダニズム建築を、朝から晩まで眺めて過ごすことが好きでした。陽射しや風の変化を感じながら空間に身を置くと、その建築デザインの意図が少しだけわかるような気がしました。ゆったりとした贅沢な時間の使い方を忘れていたとき、業務で訪れたのが京町家。都会に居ることを忘れるような庭の静けさや風の心地良さ、そして背筋が伸びるような緊張感。同じ京町家へ何度伺っても新しい発見があります。その美しいお住まいを維持するには、所有者・居住者の日頃の努力があるのでしょう。空間に身を置くだけではなく、暮らしてこそはじめて京町家と向き合うことができるのかもしれません。